

素粒子論研究の完全オンライン化の経緯についての断片

尾田欣也

2023年5月30日

私は2013年3月から2015年3月まで素粒子論研究の編集長を務めました。何をしたのかもはやあまり覚えていませんが、素粒子論研究の完全オンライン化が主な仕事と言えるかと思います。そのときの経緯などを、臆げに覚えている範囲ではありますが書きます。(といって第一稿を提出したところ、臆げすぎただいぶ事実関係の誤りについての確認依頼があり、確認・修正した結果が本原稿となっております。*1)

私が就任する前の経緯については2002年から10年間編集長を務められた、笹倉さんの記事に詳しいです [1]:

先行きに対する不安があったため、2008年の小林・益川のノーベル賞受賞をきっかけに、冊子版と並行して、電子版の発行を開始した。しかし、電子版は、特に年長者を中心として理解が得られず、困惑しながらのスタートであった。

ということで電子版の発行は2008年ですね。冊子体の電子版、という形で基研のウェブサイトには置かれていたことになります。

そして、とうとう、2013年からのPTPの日本物理学会への移行に伴い、理論物理学刊行会が基研から無くなることになった。冊子版の発行には、相当量の専門的事務作業が伴う。これまでのような理論物理学刊行会への委託ができなくなれば、冊子版の発行は極めて困難である。冊子版の発行を基研が続けるのは現実的ではなく、「素粒子論研究・冊子版」の発行は2011年度をもって終了することになった。それに伴い、2011年11月末には、九後基研所長より素粒子論グループに対して、「素粒子論研究」の今後をどうするかについて議論するようにとの要請がなされた。私の個人的な意見としては、素粒子論グループのメンバーが自由に投稿できる場としての「素粒子論研究」は他に代替物がないので、電子版として、今後も継続すべきであると考えているが、2012年春の学会での会合で、素粒子論グループとしての結論が出るであろう。その場合、発行事務は、基研から素粒子論グループに移ることになる。

冊子版の発行停止が2011年度。というわけで、発行停止していた素粒子論研究を再起動させ、リ

*1 言うまでもなく本稿の文責は私にあります。

ニューアルした完全オンライン版として立ち上げる、というのが私の任務ということになるかと思えます。

次に補足情報。上述の第一稿に注文がついたあと、当時の素粒子論委員会の委員長だった前川展祐さんに確認したところ以下のようなお返事がありました：

多分、私が素粒子論委員会の委員長をやっていた関係で、編集長を兼務していたような気がしています。今のように選挙でやることに決まるまで、素粒子論委員のメンバーの誰かがやることにしていたような気がします。はっきりと覚えているわけではないのですが。

おそらく、私が委員長の時に、選挙でやることにした、もしくは、原案を出した、みたいな感じだったような気がします。そして、実際に選挙を行って編集長が決まる（これが橋本さんだと思いますが。）まで、時間がかかるので、その時の素粒子論委員のメンバーとして（私が抜けた後の）編集長として、尾田さんが勤められたのではないかと推測しています。

私が抜けた後の新しい素粒子論委員会でそれぞれの役目を決めるでしょうから、私は尾田さんが編集長になると決める時にはかかわっていなかったように思います。（尾田さんからこのメールをもらうまで、私の次は橋本さんかなあ、と思っていたくらいです。）まあ、これも推測で、私が素粒子論委員長をやっているときに、兼務は大変、ということで、尾田さんに仕事を振った可能性もなくはないですが。

そんな感じですか。多分、私は、当時の素粒子論委員会の委員長として、現在の形の素粒子論研究編集部にするのに、強くかかわっていたはずですが、何分、私の記憶は、悲惨なので、そんな前のことは、ほとんど覚えていません。申し訳ありません。

個人的には素粒子論研究の再起動、完全オンライン化という大きな変革にそれなりに時間を使って頑張った記憶が（臍げながら）あるのですが、私が編集長をしたことすら覚えてない（泣）。まー人生そんなもんですね。拜命した当時の心境を臍げに振り返ると、めんどくせーな、というのと、編集長ってなんか響きがカッコイイし箔もつくかも？という助平心とが混ざったようなものであった気がします。

以下第一稿を修正しつつ記述していきます。まずはどこかの会社に頼もうかと思いましたが、ネットで検索してみたところ、数百万円という金が必要そうでした。一桁多い…。どうしようかなー、と思っていたところ、当時ポストクで KEK にいた Guido Cossu さん（検索したら 2022 年の論文が出てきて、今の所属は渋谷区にある会社ようです）の作った研究会のウェブサイトがめっちゃめっちゃかっこよかったので、この人に 10 万円で頼もう、と決めました。

時系列としては、素粒子論研究のウェブサイトを見たところ、[sg-1 7043] で冊子体の終了のアナウンスが 2012/2/22 になされ、同 3/26 に素粒子論研究を改めてオンラインで素粒子論グループの機関誌として作ることが決議され、同 7 月に素粒子論研究編集部の素粒子論グループへの引き継ぎが完了、そしてそのお鉢が私に回ってきた、という経緯のようです。

で Cossu さんに依頼のメールを送ったのが 2013/6/12 です：

The journal has stopped publishing paper volumes from 2011. As you can see,（不適

切な表現につき略) , and I am supposed to renovate it. Thereby, I would like to ask you to do the job, as I was impressed by your work

<http://www-conf.kek.jp/extradim/>

What I would like to ask is to start up the web page and teach me how to deal with it, within 100,000 yen.

もう 10 年も前か。このメールの前に伊藤悦子さん（今年の 4 月に理研上級研究員から基研准教授へ）を伝手として Cossu さんをお願いはしていたようです。そして LATTICE 2013 が終わってからもいい？と言われ、いいですよ！ということでお願いし、8/8 から取りかかって、いつごろ完成したんだろう。たぶん数ヶ月ぐらいですぐできたんじゃないかと思います。なんかウェブサイトにかっこよく貼るように湯川さんの写真の使用許可を貰ったりとかそういうこともしたと思います。あんまりよく覚えていなくてすみません。

そして今では私がやったときよりちゃんとしたかんじにリニューアルされてますね。知らなかった…。せっかくなので、昔の Cossu さんのデザインしたやつへのリンクを貼って終わりとしませ。^{*2}

<https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soken.editorial/elements/old-site3/index.shtml>

参考文献

[1] 笹倉 直樹, 時代の変化に翻弄された 10 年 (素研編集部より), 素粒子論研究 (2012) .

^{*2} これも将来は無くなるかもしれないので <https://archive.org> で登録しました:

<https://web.archive.org/web/20230530025246/https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soken.editorial/elements/old-site3/index.shtml>

ちなみに元のものはこちら:

<https://web.archive.org/web/20221207043113/https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soken.editorial/>